

メイン ユーザー

送信者: "PI-Winds編集部" <pi-winds@fbri.org>
宛先: <pi-winds@fbri.org>
送信日時: 2008年11月15日 2:01
件名: ポーアイの風 <臨時版・11月度追補>

ポーアイの風 【神戸医療産業都市 e-net】
臨時版 2008. 11. 15

このメールは、(財)先端医療振興財団および神戸医療産業都市構想に関係のある皆さま、関連セミナー・イベントにご参加頂いた皆さまを中心にお送りさせて頂いています。配信の新規登録・変更・停止は末尾のURLから、お問合せはpi-winds-info@fbri.org までお願いします。

「ポーアイの風 <臨時版>」について

「ポーアイの風 <月刊>」は月1回月初の配信です。
「ポーアイの風 <臨時版>」では月半ばに直近の最新情報の追加のご案内と、「こちらPI - Winds編集部」のみを掲載致します。

「ポーアイの風(No.15、11月号)」は下記からもご参照できます。
この臨時版と併せてご利用下さい。

http://www.ibri-kobe.org/magazine/pdf/pw/piw_nov.pdf

「ポーアイの風」 セミナー & イベント情報 11月度追補
= 最新情報の更新、詳細については各機関のURLからご確認下さい。 =

<神戸市からのお知らせ>

11/20 14:00-16:00 (開場13:00-)@ 臨床研究情報センター (TRI)
【神戸医療産業都市構想10周年記念講演会/
第10回先端医療の夕べ】
講師: 先端医療新興財団 理事長 井村裕夫ほか
講演内容: 生活習慣病の予防治療、再生医療の実用化など

お問合せ・お申込み先、プログラムの詳細は
http://www.ibri-kobe.org/event/pdf/2008/10th_yube.pdf

<関西広域バイオメディカルクラスター>

12/02-03 10:00-17:00 @ パシフィコ横浜 展示ホールA
【クラスタージャパン 2008 /出展/ブース No.L-1】

12/03 13:30-18:00 @ パシフィコ横浜 会議センター5F

【クラスタージャパン 2008 /シンポジウム】
『JAPAN-EU Regional Cluster Forum』
主催：経済産業省、文部科学省、欧州委員会
<http://cluster-japan.cluster.gr.jp/>

<その他>

12/05 18:30-20:30 @ ROUND 1 三ノ宮駅前店
20:30-21:30 @ 神戸遊路倶楽部
【メドコロボ神戸主催 H20年度交流会】
<http://www.ibri-kobe.org/event/pdf/2008/medco.pdf>

こちらPI-Winds 編集部

紅葉の美しい季節、神戸では、神戸医療産業都市構想の着手からの10周年を記念して、公開・非公開を取り混ぜ、いろいろなセミナーやシンポジウムなどが行われています。

構想10周年記念 (その1)

10月24日には、シスメックス株式会社が、先端医療振興財団との共催で、同社の創立40周年と神戸医療産業都市構想10周年の特別企画として、「最先端医療セミナー」を、神戸市西区の同社の「テクノパーク」で開催されました。

当該セミナーでは、University Colledge London(UCL)のS.J.Machin先生とD.Linch先生が、「血栓・止血学」、「白血病とリンパ腫」の診断技術について話されたほか、先端医療センターから浅野茂隆先生、田中紘一先生、西川伸一先生(理研CDB)がご講演されました。

Linch先生によると、血液悪性腫瘍の疾患分類は年々細くなり、WHOの2008年の分類では、悪性リンパ腫で、5つの広義のカテゴリー、67のサブタイプ、9つの暫定要素が、白血病では、7つのカテゴリー、62のサブタイプ、5つの暫定要素が上げられているそうです。

いずれにしても、細胞に発現する分子マーカーの種類により、予後や治療法が異なるため、血液悪性腫瘍の診断・分類において、「分子診断学」は不可欠な要素となってきたようですが、未だ、遺伝子発現プロファイルの役割は明確ではないとのこと。

浅野先生のお話「白血病幹細胞の臨床的意義」によると、白血病細胞の中で強い自己複製能を有し、薬剤耐性との関連が疑われるものを白血病幹細胞としているそうですが、その増殖は間質細胞への接着に強く依存しているとか。人も細胞も、いくら強くても一人じゃあ生きていけないのですね。

生体肝移植でご高名な田中紘一先生は、「移植医療と検査」との題で、生体肝移植において、手術適否やリスク、

移植時期をどのように判断しているか、また、移植後には、感染症と免疫拒絶のバランスをとるために、抗菌剤、抗ウイルス剤と、免疫抑制剤を、どのような時期にどのように投与しているかについてお話をいただきました。

免疫抑制剤のプログラムの使用量が現在の量に落ち着くまでには、使用開始から1 - 2年、症例を重ねる必要があったそうです。なお、感染症も拒絶も、免疫に関連しており、同じような臨床検査値を示すため、どう迅速に鑑別していくか診断力が問われるとのこと。患者さんやドナーの方だけでなく、移植医療チームの大変さを改めて再認識させられるご講演でした。

最後に西川伸一先生(理研CDB)が、「新しい医学の息吹」との題で、エピジェネティクスとiPSについて、解かり易く楽しいお話をされました。iPSについては、ポーアイの風の読者の皆さまはもうよくご存知のことと思いますが、エピジェネティクスとは何でしょうか？

一個体においては一部の例外を除き、どの細胞にも同じ遺伝情報(DNA)が入っています。しかし、受精卵から皮膚や血液といったいろいろな細胞に分化していく過程では、その細胞に必要な遺伝情報だけを読むようにする仕組みがあるようです。

遺伝情報という本の読む部分と読まない部分を区別する付箋を付け(ヒストン修飾)、読まない部分は糊付け(DNAのメチル化)してしまうなどした結果、DNA配列に変化はないのに、細胞それぞれの個性が出てくるといふ、遺伝情報の発現メカニズムのことをエピジェネティクスと呼ぶようです。

ちなみに、現在では、ゲノムワイドにエピジェネティクスを調べることが可能になり、ハイスループットスクリーニングで一度に20万種類のシーケンスを読み、100億塩基対が読めるそうですから、科学の進歩は凄いですね！

エピジェネティクスの過程は、長い間、発生学者の間では山から谷を転がり落ちるように一方向に進み、不可逆的であると考えられていたそうです。それで、1996年に、乳腺細胞が未受精卵の力によりリプログラムされ、クローン羊ドリーが誕生したときには、発生学者たちは誰よりもビックリ！し、非常に面白いと思ったとか。

これを契機に、ドリーのようなクローン個体ではなく、体細胞をリセットしてES細胞を作れないかという研究があちこちで始まり、その中で、山中伸弥先生は、未受精卵を用いることなく、体細胞をリプログラムして、ES細胞様の多能性細胞を得るアプローチでご研究されて、今日の成果に至られたそうです。

構想10周年記念(その2)

10月31日には、神戸医療産業都市構想研究会の会員企業・大学等の団体、および「健康を楽しむまちづくり」プログラムに参加されている一般市民の方々を中心に、神戸国際会議場にて、「神戸医療産業都市構想10周年記念事業」として、講演会やシンポジウムが開催されました。

午前中は、「再生医療の臨床応用」「トランスレーショナルリサーチ (医療機器の研究開発、医薬品の臨床研究支援)」「イノベーションの創出 (分子イメージング、次世代スーパーコンピュータ)」「クラスター形成の促進」との4つのテーマに分かれて講演会が開催されました。

編集部はこのうち、「クラスター形成の促進」のテーマを傍聴しましたが、このセッションについては、次回号の「ポーアイの風」編集後記でご紹介したいと思います。

午後には、神戸医療産業都市構想をこの10年間リードして来られた井村裕夫先生のご講演を含む「記念式典」を挟んで、シンポジウム「神戸医療産業都市構想の将来展望について」が開催されました。シンポジウムの概略は以下のとおりです。

講演「メディカルクラスターの形成と国際連携について」では、先端医療センター長の田中紘一先生が、「神戸国際フロンティアメディカルセンター (KIFMEC) 構想」も含めた神戸クラスターのご紹介をされた後、関西・神戸と関連の深い北欧のメディコンバレーからMVA (<http://www.mva.org/>) の Per Belfrage 会長が、仏のライフサイエンス・コリドー・フランスからは、Cancer-Bio-Sante-ToulouseのJaen-Pierre Saintouil, CEO (<http://www.cancerbiosante.fr/communication.html>) が、それぞれのクラスターの概略と国際連携について紹介されました。

続く、パネルディスカッション「神戸医療産業都市の将来展望と期待」は、西川伸一先生の座長で進められましたが、その中で、日経BP社の宮田満氏が、「神戸は日本で唯一本格的なバイオクラスターになる可能性がある。しかし、今後、補助金による支援を脱却して、自立できるようになるかどうかは鍵である。」との旨のコメントをされました。

さて、今回のシンポジウムの最後を締めくくったのは、黒川清先生 (政策研究大学院大学教授) の記念講演、「神戸バイオクラスター：イノベーションの課題はなにか？」でした。

連日のご講演で喉を痛めていらしたにも係わらず、とても痛快！なお話を熱く語ってくださり、大いに盛り上がりました。その中で、印象に残ったことの一部をお伝えしますと……。

世界がフラット化する時代を生き抜くには、身の回りの問題に地に足をつけて向きあい、かつ、世界を舞台に発信・行動する必要がある。「Think Locally, Act Globally ！」

「イノベーション」とは単なるインベンション、技術革新ではない。社会の価値感を変え、行動様式や生活様式まで変革できてはじめて「イノベーション」といえる。

「イノベーター」には、「フロネシス」(グーグルで調べてごらんになってはいかがでしょうか?)を伴うリーダーシップが必要である。日本では、本田宗一郎氏、豊田喜一郎氏、ソニーの盛田昭夫・井深大氏、クロネコヤマトの小倉昌男氏などが、世界ではマイクロソフトのビル・ゲイツ氏や、アップルのスティーブ・ジョブズ氏などが該当する。

「イノベーター」たちは、標準偏差には入らない変った人、出る杭である。日本をもっと活性化するには、こういった変った人たちを大事にすること

が必要である。

その他、ブランディングの重要性 等々。

もっと、黒川先生のお話をお知りになりたい方は、以前にもご紹介致しました、先生の著作「イノベーション思考法 (PHP新書)」および先生のブログ <http://www.kiyoshikurokawa.com/> をご参照されてはいかがでしょうか。

それにしても、黒川先生の若さには感服！その秘訣をお伺いしたところ、「”怒り”じゃないかな？！」とのご返答。建設的な怒り、創造的な破壊は、国にも、組織にも、個人にも、活性化のためにきっと大切なんでしょうね。

海の向こうでは、バラク・オバマ氏がアメリカ合衆国の第44代大統領になることが決まりました。時代は確実に動いているようです。

(追記)

この編集後記の最初に書きましたシスメックス(株)は、「Think Locally, Act Globally」を実践している神戸の代表的企業といえそうです。 <http://www.systemex.co.jp/>

シスメックス(株)は、その売上の70%近くが海外におけるものだそうですが、今後とも神戸を本拠地とし続けるとしており、新たに西区にオープンされた「テクノパーク」は、創造的発想のための環境として、「和敬静寂」の心を大切に、広大な公園の中に、茶室「知心庵」を有する日本庭園を備えています。機会があれば、この素晴らしい庭園を、一度、訪れてみられてはいかがでしょうか。

神戸医療産業都市に、このような企業が他にも誕生し、成長していくことを期待したいですね！今後とも、皆さまの温かいご支援をどうぞよろしくお願い致します。

「ポーアイの風」の配信お申し込みは
<http://60.32.178.43/DimSystem/AutoRegistMailAddress?grp=4>

「ポーアイの風」の配信中止は
<http://60.32.178.43/DimSystem/AutoDeleteMailAddress?grp=4>

配信先変更については、一度登録を解除の上 再度ご登録ください。

このメールは送信専用アドレスから送信されています。お問合せは pi-winds-info@fbri.org までお願いします。

個人情報の取り扱いは、別途定める「個人情報保護方針」に従います。弊財団では登録読者のメールアドレスは、メールマガジン配信 及び 弊財団からの連絡の目的でのみ使用致します。

先端医療振興財団 PI-WINDS 編集部